

モニタリング計画に関するWG委員からの主なご意見

■希少種の生息状況

台風など気候変動での攪乱の影響を受ける植物群落などは、指標として選定しておく必要があるだろう。	土屋委員 石田委員
奄美大島ではマングース防除事業でトゲネズミやケナガネズミなどの生息情報は得られていたが、2023年以降マングース防除事業終了した場合の生息情報の収集をどうするのかについてご検討いただきたい。	山田委員
ノグチゲラは発達した森林で原生的な場所に生息し、アンブレラ種として重要。ノグチゲラは入れたほうが良い。	久保田委員
保全の目的で指標を指定するわけだから、生態系を代表するような、例えばやんばるでは森林生態系の細かなハビタットを考えると、溪流部の生態系や尾根部の生態系などを体表するような種を選定してモニタリングしないとやんばる全体の自然がどうなっているかは把握できないと思う。特に溪流部分は両生類の指定は不可欠。	佐々木委員

■生息場所（ハビタット）の保全状況

この20年でバイオマスが非常に変化しており、森林が破壊され森の乾燥化が起きている。群集レベルのモニタリングが必要。例えば、現存量やCO2濃度は変化していくので、こうした指標に基づいて森林生態系機能の変化をモニタリングしていくのがよい。	久保田委員
群集のハビタットを構成する植生をマクロに捉えた方がよい。いろいろなツールを使ってバイオマスを含め、効率的な広域的なモニタリングできるような仕組み作りができればよい。	米田委員
クライテリア（x）は、絶滅危惧種、生物多様性を支えるハビタットの重要性があるので、それをしっかりモニタリングできるような体制にしないと、上手く繋がらないのではないかと思う。	土屋委員

■人為的影響（密猟等）

人が増えることで、希少な動植物の密猟が懸念されるので、その影響を見る視点も入れてほしい。	戸田委員
--	------

モニタリング計画に関するWG委員からの主なご意見

■外来種

<p>既存の外来種についてだけ駆除をすとか拡大を防止するということが記載されているが、外来種で困るのは新たな外来種が侵入する事で、予想もしないようなものが人の出入りによって入ってくる可能性がある。既存の外来種とは別に、新たな外来種が侵入しないようモニタリングして駆除していくことについては強調してほしい。</p>	横田委員
<p>侵略的外来種について、国内外来種についても記述してほしい。特に昆虫については侵略的外来種になり得るので、それについても記載してほしい。</p>	佐々木委員
<p>植物については脅威となる外来種が本土から入ってくることが考えられる。</p>	宮本委員

■観光利用

<p>観光利用では管理も重要だが、むしろ運用状況などは量より質であり、運用状況を入れたらよい。</p>	田中委員
<p>推薦地域も大事だが、その周辺地域にも、小規模だか固有種の中心地域がたくさんあり、影響を受けるとすぐに絶滅してしまう可能性がある。推薦地域に観光客が押しかけた際に、容易に周辺地域も影響を受ける。そういった沢山ある中心地域をどう守るかは検討してほしい。（例）請島、与路島、加計呂間島、伊江島、伊平屋島、渡嘉敷島、久米島などの固有種の中心地域にモニタリングサイトを設置し、世界遺産によって人の影響を受けているかどうか、受けていればどう対応すればよいかをぜひ検討してほしい。</p>	太田委員
<p>ほとんどのモニタリングに関して、新しい手法を開発していかないと、実際はきちんとしたモニタリングはできないと思う。観光客によって、土壌にどのような影響が出て土壌生態系がどう変わっていくか、今土壌動物学会でもどういった指標が必要かは出されていないが、非常に重要。</p>	佐々木委員

モニタリング計画に関するWG委員からの主なご意見

■気候変動や災害

モニタリング視点に「気候変動や災害の影響またはその予兆が早期に把握されていること」が新たに追加されたことには賛成である。	米田委員
landscapeレベルでの資料、例えば、衛星情報などを活用したモニタリングシステムの構築も必要ではないか。（理由：頻度が高まる豪雨や大型台風等による植生攪乱を広域的に捉えて保全活動に活かすことが重要であるため）	米田委員
長期的なものではなく、重油流出や海底火山等の大規模な事故や災害等の緊急事態によって遺産地域に一定規模以上の環境攪乱の懸念がある場合に、緊急的なモニタリングを適宜行う必要がある、その仕組みも含めて検討しておく必要があるのではないか。	宮本委員

■計画の仕組みについて

他の生物を含めた、全体のモニタリング計画がとても気になる。大事なのは全体の計画だと思う。	福田委員
実効性のあるモニタリングの仕組みを具体的に示すためにも、順応的管理として、事前の予測と違って懸念されることが起こった時に、どのような仕組みで、フィードバックして解決していくのか。	石田委員
データを誰がどこに集めてどのように集積するのか。これはとても難しく厄介な問題である。サテライトとして、郷土資料館や県立博物館、沖縄自然史博物館などを記載するとよいと思う。HPが立ち上がっているので、双方向での収集システムがあるとよい。	福田委員 米田委員